九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

未破裂脳動脈瘤を有した急性期脳梗塞患者に対する抗血栓療法の安全性に関する研究

https://hdl.handle.net/2324/4110423

出版情報：九州大学, 2020, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

KYUSHU UNIVERSITY

氏　　名：生野　雄二

論 文 名：Safety of antithrombotic therapy for patients with acute ischemic stroke harboring unruptured intracranial aneurysm

（未破裂脳動脈瘤を有した急性期脳梗塞患者に対する抗血栓療法安全性に関する研究）

区　　分：乙

論　文　内　容　の　要　旨

未破裂脳動脈瘤（unruptured intracranial aneurysms：UIAs）を有する急性期脳梗塞患者に対する抗血栓療法の安全性は不明である。

本研究はUIAsを有する急性期脳梗塞患者に対して抗血小板療法、抗凝固療法、経静脈的血栓溶解療法が安全か否かを決定するため行った。

福岡脳卒中データベース研究に2007年6月から2014年12月に登録された急性期脳梗塞患者9149例のうち脳血管画像および発症3か月後転帰のデータを有する8857例を対象とした。全頭蓋内出血，症候性頭蓋内出血，入院中死亡を含む有害事象の頻度についてUIAs群,非UIAs群で比較した。脳卒中発症3か月後の転帰不良（modified Rankin scale score ≧3)のリスクを，ロジスティック回帰分析を用いて交絡因子を調整したのちに推定した。

UIAsを412例(4.7%)に認め，平均径は4.1±3.2mmであった。全患者群，抗血小板療法群，抗凝固療法群，および経静脈血栓溶解療法施行群のいずれにおいても，UIAs群と非UIAs群間で全ての有害事象の頻度に有意な差はなかった。 UIAsの合併による転帰不良のオッズ比の上昇はみられず，抗血小板療法群，抗凝固療法群，経静脈的血栓溶解療法施行群においても同様であった。

UIAs の存在は急性期脳梗塞に対する抗血栓療法後を施行しても有害事象や転帰不良の増加と関連しないことが示された。しかしながら，これらの関係を確かめるために，症例の蓄積が必要である。